こたえ

なぞ その4

安土城より前の城は石垣のない城だった？

「日本の城」と聞いて、地面を削って土を積み上げただけで、石をほとんど使っていない土づくりの城をイメージする人は少ないかもしれません。しかし、安土城が建てられるまでは、こうした城が一般的でした。

城に隠されたしかけから、昔の人たちの戦の知恵を知ることができます。

土を土台とした城のしかけは、城づくりの基本として、後の時代にも長く引きつがれていきます。

やってみよう

Ⅰ．　土づくりの城の模型や解説を見ながら、クイズに答えてみよう。

① 構造にはそれぞれどんな役割があったのか、構造の名前と役割を模型を見ながら線で結んでみよう。

土塁	ア	深く広い溝のこと。弓矢や、槍から城全体を守る。
堀	イ	台形状の盛り土のこと。この上に塀や柵を建てて敵を攻撃したり、侵入を防いだりする。
虎口	ウ	堀や土塁で区切った平らな所のこと。
曲輪	エ	城の出入り口のこと。敵が入ってくるのを防ぐために折れ曲がった形などをしている。



「城」という漢字の通り、
城はまさに「土」から「成」るものだったんじゃ。

② 城を守っている人の服装を選んでみよう。

ア．



イ．

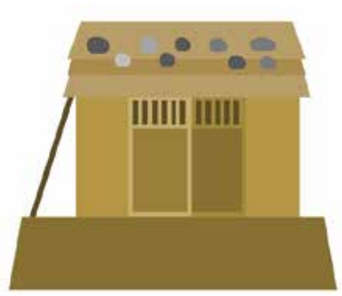


ウ．



② 土づくりの城に建てられた建物を選んでみよう。

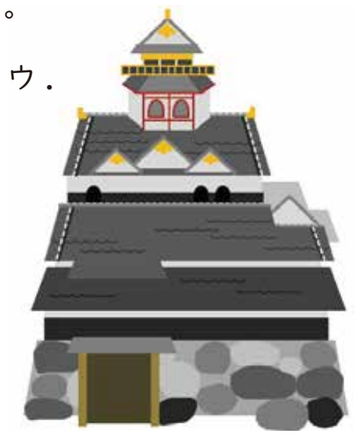
ア．



イ．



ウ．





城にいる人は武器を持ってあまり目立たない格好をしているぞ。建物も安土城とはずいぶん違うイメージじゃ。

模型は戦国時代の城の建て方の本「築城記」を参考にしています。

＊「築城記」とは…

越前（今の福井県）の武将だった朝倉氏に伝わった資料です。当時の城づくりの教科書のようなものです。